

## 「一本の道から～東山魁夷の世界～」

図画工作科の学習で、東山魁夷さんの絵を鑑賞しました。四方の壁に並んだ絵を見て、子どもたちは絵の美しさに息をのんでいました。最初に、絵を選んで、その絵の印象を五七五で表現し、クラスみんなにどの絵の五七五なのかをクイズで出しました。同じ印象をもった子、違う感じ方をする子、『いろんな意見があることがすばらしい。』ということに気づくことができる、すてきな時間となりました。そのあと、鑑賞文というものにもチャレンジしました。紹介します。

作者東山魁夷さんがどのような想いでこの作品を描いたのかを鑑賞文にまとめています。描かれている色合いや構図などから、見えないところまで想像しています。人生…奥が深いですね。子どもたちのきれいな感性には驚かされます。

ここは東山さんの人生だと思う。なぜならここは坂道で、金の木枯らしが舞っている。人生が楽しく幸せに、そしてすばらしいことを意味しているのだと考えた。そして、ゴールはまだ見えていない。この道は坂道ばかりだから、少しずつ上がっていき、もしくは下がり、東山さんが一步一步ふみしめることに、地面に草や花ができ、土台として、この人生がより楽しく美しくなり、さらに、この人生と同じような道をたどる人も、この道を見本にできる。このようなことを東山さんは伝えたかったのだと思う。

朝倉 弘喜



『木枯らし舞う』